

枚方教育

No. 1843
2020.8.27

枚方教職員組合
枚方市西禁野一・一三
TEL 八四八・三三〇〇
FAX 八四八・三〇五二

8/4 対市交渉

現場の声を反映したコロナ対策を 限界を超える負担の軽減を 市費教職員含めた待遇改善を

枚方教組は8/4、2020年度の対市交渉を行い、要求書を市教委に手交し、職場からの切実な声や要求を直接届けました。
コロナ対策で参加人数や交渉時間が限られた中での交渉となりましたが、職場からの切実な要求や声をあげ、市教委に対応を求めました。

教育関係 大規模改修に現場の声を反映を 市費教職員のサービス・待遇の改善を

組合からの発言

- 大規模改修で、せっかく改修したのに、現場の声や要望が反映されていないのではないかと?
- 市費教職員の在宅勤務適用の違い、会計年度任用職員の月例給減額の見直しを
- 校務員、留守家庭児童会指導員などの民間委託検討の見直しを
- 大規模校で登下校時も過密に、早急な解消を
- プールの老朽箇所が危険、大規模な改修を
- コロナ対応予算、非接触体

- ◆市費教職員の病休代替については今年度から配置できるように規則を改正。
- ◆市費教職員のサービスの違いについて、難しい面もあるができるだけ対応したい。
- ◆会計年度任用職員の月例給については、本庁と連携しながら検討していきたい。
- ◆非接触体温計、学校で不足するようなら対応していきたい。

温計各校1では不足、学校で買えるように予算をつけてほしい

(市教委の主な回答)

「コロナ感染拡大の中で、現場の職員の声を反映していくことが何より求められている。今までは違い対応が必要であり、行政の進め方、考え方を変えていくことが重要。」

「会計年度任用職員について、直接雇用の中で、この間乗り越えてきている。欠員や人手不足の状況、待遇改善や長時間勤務の解消など考え直していくべき。」

「市教委に対して更なる対応を求めました。」

「教職員の声の反映が何より求められている」

これに対して、菅書記長からは

「コロナ感染拡大の中で、現場の職員の声を反映していくことが何より求められている。今までは違い対応が必要であり、行政の進め方、考え方を変えていくことが重要。」

「会計年度任用職員について、直接雇用の中で、この間乗り越えてきている。欠員や人手不足の状況、待遇改善や長時間勤務の解消など考え直していくべき。」

「市教委に対して更なる対応を求めました。」



学校教育関係

コロナ対策の負担軽減を、 「重点化」で学習負担軽減を 留守児・指導員の待遇改善を



20年度対市要求書を市教委に手交する有馬委員長(右)

組合からの発言

□感染対策下業務が増えている、休憩取れず膀胱炎になる先生、他校でも過労で救急搬送された先生もいる。早急な業務改善策を。

□始業時間早められた学校で、子育て中の先生が悲鳴を上げている。適正な勤務時間の管理を。

□授業時間確保策、遅れを取り戻す対策で、子どもが悲鳴を上げ、不登校も増えている。文科省の「学習の重点化」で、家庭学習で対応できる内容を整理して、学校での授業時間、学習負担を減らしてほしい。

□臨時的な居場所、人手不足の中でも留守家庭児童会の指導員に助けてもらった。しかし、毎日11時間勤務で人手が不足ときいた。どれだけ欠員いるのか。第2波に備えた対応を。

(市教委の主な回答)

◆業務負担の中、学校閉庁日の拡大など考えている。ストレスチェック、医師面談にも取り組んで欲しい。

◆(出勤時間変更など)勤務時間割り振り変更については、安易に行うべきではない。校長を含めた職員全体での合意、1週間前までの周知が必要であり、子育て・介護など職員など個別な対応も必要と校長会に下ろしている。

◆授業時数については、学びの保障として、市教委・学校の行事精選に取り組み、今年度中に当初の課程を終えることを目標に行い、夏休みの短縮などを指示した。第2波第3波を想定した、様々な可能性を考えていきたい。

◆(モジュール学習など)も活用しながら夏季の授業の短縮も可能にしている。

◆留守家庭児童会指導員、156人定員のところ51人欠員。今年度に入っても採用試験を実施。できるだけ資格をもった職員を配置したい。

「子ども・教職員の負担軽減のためにも『重点化』を」

これを受けて、菅書記長はまず、「コロナ禍の中でも働き方改革継続しているというこ

とでいいのか」と確認。市教委も「その通り」と回答しました。

そのうえで、「現在の授業時数確保策は『働き方改革』と逆行していないか？」

「子どもの不登校も増加。子どもも保護者も待ち遠しかった学校も今は、期待と違い現実になっている」

「教師の負担や子どもの実態からも文科省や教科書会社も打ち出している『重点化』に踏み込むべきではないか」と検討を求めました。

さらに「休校中やコロナ対応についての指示が、現場が知らずに、市のホームページで保護者が知らされるやり方はどうなのか」と行政の進め方についても、疑問を投げ

閉会にあたり、有馬委員長は、「市教委も難しい対応・判断を迫られる中ではあるが、子どものために教職員と一致できるところも多い。特に少人数学級の実現のため、国や府に求めたい」と述べました。

狩野学校教育部長からは「現場の生の声を受け止めた。この間委員会として学校への伝達が遅くなつたことは、お詫びしたい。この状況に対して迅速に対応できるようにしたい。」と、挨拶をうけました。